# 50億円投じ鳥取に工場

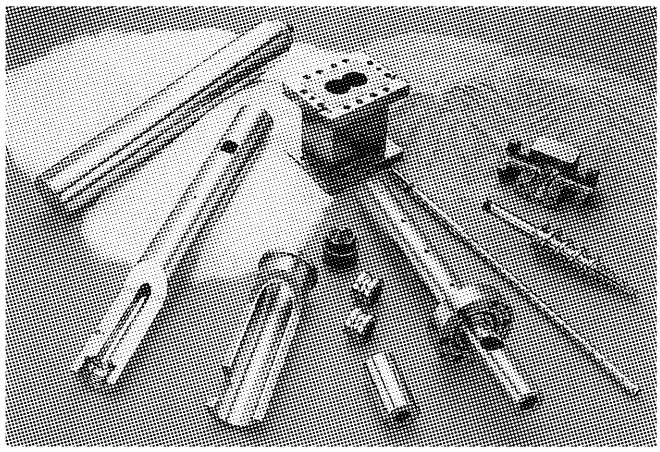
## 城洋、シリンダー増産

### 航空機エンジン関連部品 量産体制を構築

【姫路】城洋（兵庫県姫路市、角田城治社長、079・245・0598）は、鳥取市内の工業団地に新工場を建設する。総投資額は約50億円。射出成形機用シリンダーの増産と、新規事業として取り組む航空機エンジン関連部品の量産体制構築が目的。約30億円投じる1期工事は2018年9月の完成予定で、19年中に20億円をかけて2期工事を実施する。新工場に伴う雇用計画は50人。

城洋は1期工事で床面積約6600平方㍍の平屋棟を建てる。ロボットを活用した全自動のシリンダー生産ラインを構築し、BTA（深穴あけ）などの専用機も導入する。シリンダーの生産能力は、本社工場の2倍以上に当たる月産600本となる見込み。

本社工場で製造する大型のシリンダーサイズは直径200㍉㍍、長さ1500㍉㍍以上。一方、新工場では直径300㍉㍍、長さ2000㍉㍍までを手がける計画。従来は購入していたシリンダー内のスクリューやノズルなどの部品も内製化し、一貫生産にする。



生産する射出成形機用のシリンダーとスクリュー

航空機エンジン関連部品は新規事業で15年に「JISQ9100」の認証を取得し、今年5月から本社工場で生産を始めた。今後の需要増が見込め、大型部品のため新工場で量産体制をとる。大型の複合ターニングセンターや5軸のマシニングセンターを複数台設置する。

同社は当初、シリンダーの海外生産を計画していた。しかし、国内で競争力の高い最新鋭工場を建設する方が有利と判断した。鳥取市は本社からアクセスしやすい立地にある。

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社